やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
1	○参加申込書作成について ①外部協力企業との共同提案を実施する場合、共同提案を行う全ての企業が募集要項 4(2) の参加申込書及び添付書類を提出するのか、もしくは、代表者のみが 募集要項 4(2) の参加申込書及び添付書類 を提出し、外部協力企業の情報は実施体制表様式第 4 号にて届け出るのみでよいか。 ②企画提案書参加申込書（様式第 1 号）の押印内容(例：社印、部署印など) に指定はあるか。	①募集要項4(2)で示す添付書類は代表者のみ提出してください。その際、代表者が提出する誓約書（様式第2号）に基づき実施する山梨県警への照会では、会社及び役員を対象に確認を行うので、役員名簿（様式任意）を添付してください。外部協力企業は実施体制表（様式第4号）で指定する添付書類を提出してください。 なお、誓約書に記載された項目については、外部協力企業にも適用しますので、代表者の責任において確認した上で参加申込みをしてください（外部協力企業からの誓約書は、共同創出候補者選定後に提出を求める予定です）。 ②代表者印（商業登記規則第 9 条に基づき登記所に提出した印）になります。	質問日 2025/2/14 回答日 2025/2/18
2	○収穫予想表の適用 ①人工林広葉樹の幹材積成長量を見積もる際に、どの樹種の収穫予想表を使用するのか。	①募集要項 6. 企画提案書(1)エ)で示す「山梨県県有林収穫予想表」は人工林広葉樹を掲載していないので、本県の森林整備課が公表している「広葉樹収穫予想表／広葉樹林分材積表（ナラ類・クヌギ）」を使用してください。 https://www.pref.yamanashi.jp/documents/110938/yamanashi_narahoka_s62.pdf	質問日 2025/2/20 回答日 2025/2/21

やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
3	○選定委員会の構成・人数 プレゼンテーションや企画提案書の作成にあたり、どの程度の説明や補足の情報が必要なのかを検討するために、外部の研究者や民間事業者等の有無、または委員の人数・構成等についてご教示いただきたい。	選定委員会は、県職員3名、外部有識者2名の合計5名で構成し、外部有識者は次のとおりです。 ・森林計画、FSC認証の専門家1名 ・脱炭素、排出量削減戦略の専門家1名 なお、所属と氏名は、審査結果と同時に公表する予定であり、現時点では公表しません。	質問日 2025/3/6 回答日 2025/3/11
4	○質疑応答への対応 募集要項7の(3)プレゼンテーション審査 エ)その他に、「提案説明者は、実施体制表に記載された者のうち主担当になる者が行うこと。」とあるが、質疑応答については、実施体制表に記載のある別の担当者や外部協力企業の担当者が回答してもよいか。また、同席者の参加人数の上限はあるか。	質疑応答は、実施体制表に記載のある者（外部協力企業の担当者も含む）が回答してください。ただし、会場のスペースに制限があるのでプレゼンテーションに参加する人数は3名までとします。	同上
5	○事業計画について ①募集要項8の(1)に「県は、共同創出候補者と企画提案書の内容及び事業計画を基本として」とあるが、この事業計画とは企画提案書の中の事業計画と読み替えてよいか。 ②協定書(案)第3条に記載の「事業計画書」は、仕様書10の(1)に記載のあるとおり(様式任意)という認識でよいか。	事業計画は、協定後に事業を円滑に進めるためのものであり、協定書(案)第3条に記載の「事業計画書」の原案となります。 任意の様式で作成してください。	同上

やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
6	○施業履歴 仕様書6(2)のア人工林内訳の表の欄外※1に「③データ突合ができないなどの理由」とあるが、今次創出見込量の算定にあたり当該差分9,000haは含めないという取り扱いでよいか。	県有林では、森林簿と図面は森林GISに、施業履歴は造林台帳システムに搭載し、2つのシステムで情報を管理しています。 今回の募集にあたり、森林GISの森林簿データと造林台帳システムの平成2年以降の施業履歴データを突合し、42,000haが突合出来ることを確認しました。これらは、地図上に実測図を位置付けることが可能なデータと考えています。 差分の9,000haは、①平成2年より前に施業を行った、②林道などの施業除地になっている、③双方のデータをつなぐコードが不一致などの理由により未突合となった面積です。 このため、当該差分の内③については、今後の作業方法の工夫次第により創出が可能な箇所があると考えています。当該差分を含めるか否かは、これらの状況を踏まえ企画提案者で判断してください。	同上
7	○仕様書6の(4)「収穫予想表」について タイトルと内容が合致していないように見受けられるが、この仕様はどのように解釈すればよいか。	誤記載のため考慮外としてください。	同上

やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
8	○クレジット認証申請 仕様書8の(2)年度別の内容において、認証対象期間を令和8年度~とする場合、令和8年度分の吸収量を審査機関による検証を受け、クレジット認証申請を実施できるのは、現行制度上、最速で令和9年度以降となる。令和8年度に審査機関による検証やクレジット認証申請を実施する計画とされている意図をご教示いただきたい。	令和8年度の吸収量について、最短でクレジット認証を受けることを想定し、記載の内容としました。現行制度上、最速の申請が令和9年度以降ということであれば、それに従った上で認証を受けることとします。	同上
9	○施業図面の数量 仕様書9(1)県が提供する資料のうち、5の施業図面に以下の記載があるが、経費見積のため可能であればそれぞれの数量をご教示いただきたい。不明な場合は施業対象地数をご教示いただきたい。 ・県の造林台帳システムに搭載の附図(PDF) ・県有林造林台帳に保管している附図(紙図面) ・過去5年間の造林補助金申請添付図面(紙、PDF) ・デジタルコンパスデータ ・ポケットコンパスデータ(テキスト形式又は紙)	これらの図面類は、通常、出先事務所に保管しているため、現在、協定締結予定日を念頭に収集を行っているところであり、それぞれの数量を回答することはできませんが、対象となる台帳は、造林台帳システム上で約1.3万箇所になります。 なお、図面類は、なるべく多くの電子データを収集することとしており、提供資料には、PDFに変換する前のCADデータも加わります。	同上

やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
10	○審査基準 審査基準にある「販売支援（又は買取）」について、販売支援による販売量（又は買取量）の上限・または下限、販売時期（又は買取時期）の期限などあるか。	県では、J-VERと同様に創出したJ-クレジットを販売する予定です。県の販売量（当面は現在の販売量程度）が確保できれば、販売量（又は買取量）の上限や下限はありません。 販売時期（又は買取時期）は、クレジットの販売収益を県有林の整備に活用する予定のため、協定締結後、共同創出者と協議した上で販売支援又は買取を行っていただく予定です。	同上

やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
11	○創出量の評価 審査基準の（１）審査基準、および（２）評価基準にある「３．創出量」について、（１）審査基準では 1.森林経営活動方法論（F0-001）に基づく創出方法であるか 2.創出経費を必要最低限に抑えており、県の取得が多くなるものであるか 3.創出見込量に対する施業履歴の反映方法など、実現性のある方法となっているか の３点記載がある一方、（２）評価基準では、「最も県の取得量が多い：30点」とされており、「創出量」のみ評価しているように読み取れる。 （１）審査基準「３．創出量」の１～３がどの様に評価基準として点数化されるのかについてご教示いただきたい。	（１）審査基準「３．創出量」の１～３は、創出方法が指定された方法論に基づくものであることを前提に、創出経費の必要性、施業履歴をプロジェクトに反映する技術力を確認するものであり、直接点数化するものではありません。 これらを満たした上で、（２）評価基準により創出見込量等を評価することとしており、選定委員会が（１）審査基準「３．創出量」の１～３を満たさないと判断した場合は、提案のあった創出見込量等を減じた上で評価を行う可能性があります。 ※審査における創出量は概算であり、確定数量はプロジェクト登録に向けた作業を経て導き出されるものと考えています。このため、審査においては、限られた条件の中で必要な情報を収集・分析し、裏付けのある理論に基づき提案を行い、県と共同で創出する体制にあるかを重視します。	同上

やまなし県有林J-クレジット共同創出事業企画提案書作成に関する質問及びその回答

No.	質問	回答	質問日 及び 回答日
12	○企画提案書 参考様式の企画提案書にある（3）J-クレジットの創出量の記載事項について、「イ創出方法及び創出量」の次が「ハ創出経費に相当するクレジット量」であるが、「ハ」を「ロ」と読み替えて差し支えないか。	差し支えありません。 なお、企画提案書は参考様式のため、これに掲げる項目を提案していればよく、記号等は参考様式に縛られず提案者の裁量で決めてかまいません。	同上
13	○地位の選択 創出量を積算するにあたって、地位(上・中・下)はどの地位級を選択すればよいか。	森林簿上における地位の割合は、人工林が、上6%、中91%、下3%であり、天然林は概ね100%が中となっています。 ただし、本県では地位をあらかじめ「中」とした上で、皆伐等の収穫時の調査結果をもとに地位を変更しているため、皆伐前の人工林などでは、地位と現地が異なる場合があることに留意してください。また、提案者がこれまでに行った同種・類似事業やオープンデータ化している地利空間情報などを活用し、上記割合を補正して創出量を算定しても問題はありません。	同上